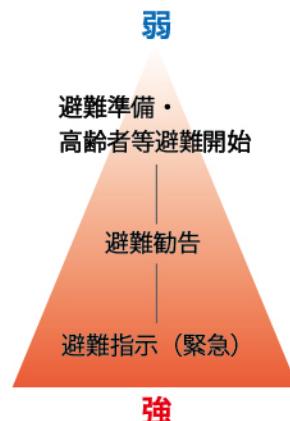
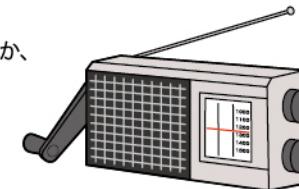


## 6 災害情報や、避難に関する情報を入手できる準備をしていますか？

災害時の避難情報は、市町村の防災行政無線や広報車のほか、テレビ、ラジオなどで入手できます。また停電しても困らないように、携帯ラジオやワンセグなど情報の入手先をあらかじめ多重化しておきましょう。



自治体が発信する避難情報の種類は、段階的に次の通りです

### ●避難準備・高齢者等避難開始

- いつでも避難ができるよう準備をしましょう。身の危険を感じる人は避難を開始しましょう。
- 避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児をお連れの方等）は避難を開始しましょう。

### ●避難勧告

- 避難場所へ避難をしましょう。
- 地下空間にいる人は、速やかに安全な場所に避難をしましょう。

### ●避難指示（緊急）

- まだ避難していない場合は、直ちにその場から避難しましょう。
- 外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、自宅内より安全な場所に避難をしましょう。

※必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。

また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

## 備え&ポイント!



情報入手の新たな手段のひとつに緊急速報メール（エリアメール）があります。対応機種をお持ちであれば、いざというとき自治体からの災害・避難情報を無料で受信できるほか、気象庁からの緊急地震速報や津波警報、土砂災害警戒情報も配信されます。東日本大震災以降、住民への情報伝達手段の一つとして急速に普及し、多くの自治体で利用されています。ご自分の携帯電話が対応機種かどうかわからない場合は、お近くの携帯ショップに問い合わせましょう。

- docomo 緊急速報「エリアメール」対応機種  
[https://www.nttdocomo.co.jp/service/areamail/compatible\\_model/](https://www.nttdocomo.co.jp/service/areamail/compatible_model/)
- au 緊急速報メール対応機種  
<https://www.au.com/mobile/anti-disaster/kinkyu-sokuho/enabled-device/>
- SoftBank 緊急速報メール対応機種  
[https://www.softbank.jp/mobile/service/urgent\\_news/models/](https://www.softbank.jp/mobile/service/urgent_news/models/)

## 7 家族が離れているときの安否確認の方法を決めていますか？

大きな災害が起き、人々が一斉に電話やインターネットを使用すると、回線が込み合い、家の電話や携帯電話はつながりにくくなります。電話がつながらなければ、命にかかる救助の要請もできなくなります。緊急車両に道を譲る気持ちと同じように、なるべく電話の使用は控え、緊急時にサービスが提供される「災害用伝言ダイヤル171」や「災害用伝言板」の利用を心がけましょう。

### ●体験利用ができる期間

毎月1日と15日、正月三が日（1/1～1/3）、9月の防災週間、1月の防災とボランティア週間

## 災害用伝言ダイヤル171



災害用ブロードバンド伝言板web171 <https://www.web171.jp>

## 携帯電話 災害用伝言板

各社のトップメニューから「災害用伝言板」を聞く

伝言の録音方法 「録音」を選択 伝言の確認方法 「確認」を選択

伝言を入力する(最大100文字まで) 被災地の方の携帯電話番号を入力して伝言を見る

### ●災害用伝言ダイヤル171

地震などの災害が発生し、被災地の方の安否を気遣う通話が増加し、被災地への通話がつながりにくい状況になった場合に開始されるサービスです。

登録できる伝言は1件につき30秒以内で、登録できる件数は状況に応じて1～20件です。保存期間は災害用伝言ダイヤル（171）の運用期間終了まで（体験利用時は体験利用期間終了まで）です。

### ●災害用伝言板

震度6弱以上の地震等、大きな災害が発生すると開始されるサービスです。携帯電話やスマートフォンからご自身の安否情報を登録すると、インターネットを通じて全世界から内容を確認できます。

携帯各社とNTT東西が提供する災害用伝言板は会社を問わず、相互に登録情報が検索できます。また、携帯各社は、あらかじめ安否を知らせたいメールアドレスを登録しておくと、登録情報が相手にメールで届くサービスを提供しています。

## 備え&ポイント!

家族と電話連絡がつかなくても「安心できる」備えが大切です。災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板は、上記のとおりに体験利用ができます。使用手順を確認しておきましょう。また、保育園や学校と子供の引き取り方法について確認しておいたり、家族防災会議を開いて、家族の集合場所を災害別に事前に決めておきましょう。

